



川口の鋳物で作られたこの写真の置物は、何のレプリカでしょう

校長 赤羽 広美



この写真の置物は、実物の1/1000の大きさのものです。神根小学校の校長室に飾ってあります。6年生の児童に聞いてみると、「聖火台」とすぐに答えてくれました。これは、川口に住んでいるなら誰でも知っていてほしいもの、「**1964年に行われた東京オリンピックの聖火台**」のレプリカです。

本物の聖火台を作った方は、川口市の鋳物師、鈴木文吾さんです。実際の聖火台の高さは2m10cmもあります。『彩の国道徳（高学年用）』にも、聖火台を作った時の話が載っています。それによると、完成間近で溶かした鉄を流し入れる作業中に型が壊れ、鉄が吹き出してしまい大失敗、作業は一からやり直すことになってしまったこと。一緒に聖火台を作っていた父親が完成前に過労のため亡くなってしまったこと。それでもあきらめずに、川口のため、国のため、父親のため一週間寝ないで作り続け、最後には完成させたこと。聖火台が完成し、オリンピックが終了した後も、毎年、国立競技場に行って自分が作った聖火台を磨いていたことが書かれています。聖火台には、こんな知られざる裏話があったのです。鋳物は、川口市が世界に誇る素晴らしいものです。世界に誇る川口の鋳物を、自信と誇りをもって作っている人がいるのですね。

ところで、7月23日から8月8日まで東京オリンピックが、8月24日から9月5日まで東京パラリンピックが開催される予定です。コロナ禍の中での開催に不安の声も多く上がっていますが、もし、予定通り開催されたら、今の世の中で出場する切符を手にすることができた多くの選手に、心からの声援を送ってあげましょう。夢は実現できるものだと、努力は叶うものだと、一生懸命に努力している人たちから、勇気と力をもらいましょう。そして、神根っ子のみなさんも、夢を叶えるために、努力して力をつけようじゃありませんか。

6月5日（土）の学校公開には、たくさんの方に参観をしていただき、ありがとうございました。参観への出席率は、全体で86%、低学年では100%の学級もありました。保護者の皆様からのアンケートを見ると、「子供たちの姿が見れてよかった」とたくさんの方からご意見をいただきました。ありがとうございました。

7月7日（水）・8日（木）・9日（金）の3日間に、学級別の参観と懇談会を実施いたします。前は、参観時間が短かったのですが、今回は45分間ですので、子供たちの頑張る姿をじっくりと見ていただけたらと思います。懇談会も実施いたします。

皆様のご来校をお待ちしています。

